

業務効率化を、必要十分へ。

# BIツールが高いと感じたら。 「必要な指標だけ」に絞る 代替の考え方

---

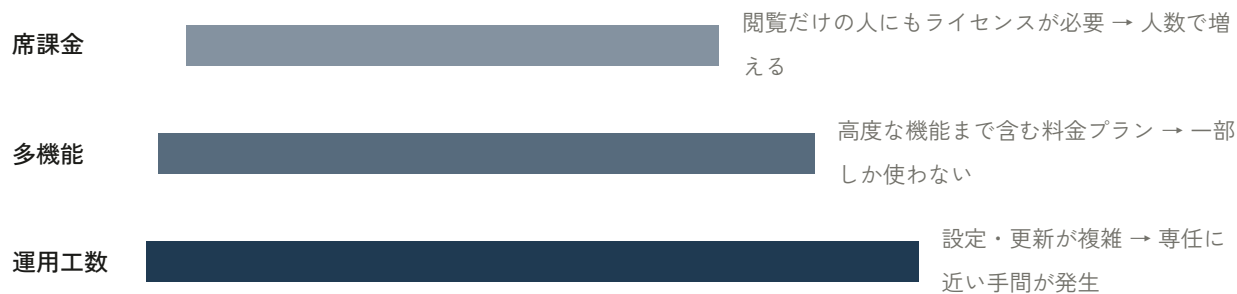
BIツールのライセンス費が重い、機能が多すぎて使いこなせない——そんなとき、本当に必要なのは「全機能」ではなく「いくつかの指標」かもしれません。本資料では、コストを見直し、必要な指標に絞って代替を考えるための視点を、図解で整理します。

*Distill n Develop*

## なぜBIツールは「高い」と感じるのか

多機能なBIツールはコストが膨らみやすい構造を持っています。割高感は、主に3つの要因が積み上がって生まれます。

図1：コストが積み上がる3要因

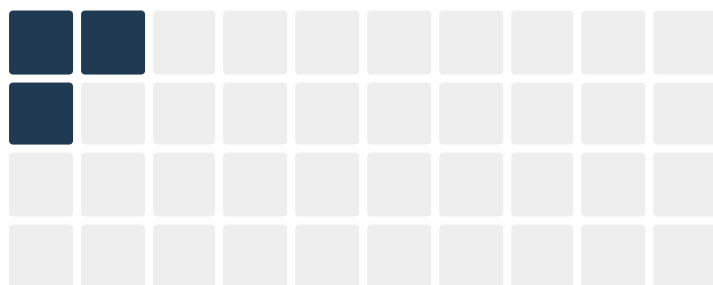


つまり「使っていない部分にも払い続けている」状態が、割高感の正体であることが少なくありません。

## 本当に必要な指標は、意外と少ない

日々の意思決定で実際に見ている数字を書き出すと、多くの場合それは数枚のダッシュボードに収まります。

図2：搭載機能と実際に使う機能



使うのは、ごく一部。

残りの多くは「あれば便利」。

「無いと困る」指標だけに絞ると、必要な範囲が見えてきます。

## 「必要な指標だけ」に絞る代替の考え方

汎用BIツールではなく、必要な指標に絞った専用ダッシュボードへ。過剰な機能とライセンス費を削ぎ落とします。

図3：汎用BIツール → 専用ダッシュボード

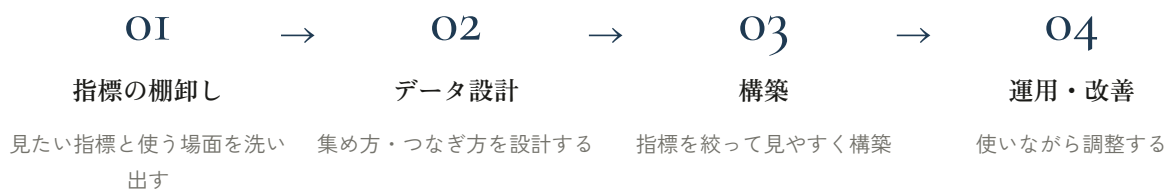


考え方は、次の3点に集約されます。

- 見たい指標を先に決め、そこから逆算してデータのつなぎ方を設計する。
- 過剰な機能を持たず、必要な可視化だけを軽量に実装する。
- 集計・更新はできるだけ自動化し、AIも活用して運用の手間を抑える。

## 置き換えの進め方

図4：4ステップ



## 見直しの判断チェックリスト

次のうち2つ以上当てはまるなら、BIツールの見直しを検討する価値があります。

- ライセンス費が年々上がっている。

---

- 実際に見るのは決まった数枚のダッシュボードだけ。

---

- レポート作成に手作業が残っている。

---

- 使っていない機能が多いと感じる。

---

### まとめ

BIツールは「全部入り」である必要はありません。本当に必要な指標に絞れば、コストも運用も軽くなります。「高い」と感じたら、それは機能を足す合図ではなく、**削ぐ**合図かもしれません。

ご相談・お見積りは無料です。

株式会社DnDでは、高額なBIツールを必要な指標に絞った専用ダッシュボードで代替する「BIツール代替」をご提供しています。

お問い合わせ：<https://dnd-inc.jp/contact.html> / <https://dnd-inc.jp/service-bi.html>